

# 平成 30 年度慢性疼痛診療体制構築モデル事業中間報告

平成 30 年度慢性疼痛診療体制構築モデル事業  
協力医療機関 関係者各位殿

晩秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

H30 年度も下半期に入り、本年度の本慢性痛診療体制構築モデル事業も半ばを迎えました。上半期の取り組みをまとめましたので、御一読願います。本モデル事業は、昨年度から始まり、今年度は厚生労働省からの要望により、近畿地区（及び福井県）のすべての府県から一施設以上参加していただいております。本モデル事業の目的は、本年 5 月に開催いたしましたスタートアップミーティングでご案内させていただきましたとおり、「生物心理社会モデルに基づいた慢性痛に対する診療体制の構築」です。本年度から新たに参加されている施設の先生方の中には、今後の取り組みを模索されている方も多いと思われまます。この中間報告を参考にいただき、診療連携、セミナーへの参加、施設訪問、実践されている取り組み等ございましたらご連絡願います。モデル事業のホームページや年度末に作成する報告書に反映させていただきます。新たに実践される取り組み（セミナー開催、施設訪問、広報など）に必要な経費等がございましたらご相談ください。当方で検討した上で、事業費から拠出させていただきます。なお、本モデル事業は単年度事業で、来年度以降の予定は確定しておりませんが、今のところ終了するという情報はございません。従いまして、来年度以降のことも視野に入れていただいた上で御検討いただけると幸いです。

## H30 年度モデル事業の概略

### 位置づけ

厚生労働省は我が国の医療行政を進めるにあたり、これまで十分には取り組まれていなかった領域の検討を行い、平成 21 年度に「慢性疾患対策の更なる充実に向けた検討会」を開き対策が十分でなかった領域として「慢性疼痛」が取り上げられた。この検討会の審議を受け、平成 22 年に「慢性の痛みに関する検討会」が開かれ、3 回の審議を経て、提言という形で今後の取り組みの方向性が示された。その結果、「慢性の痛み対策研究事業」、国立研究開発法人日本医療研究開発機構「慢性の痛み解明研究事業」などが始まり継続している。本モデル事業は、厚生労働省によるこのような事業の一つとして H29 年度に公募され、H29 年度は全国から 3 拠点、H30 年度は全国を 8 ブロックに分け、それぞれのブロックに一か所ずつ拠点を設け進められている。近畿地区はその 8 ブロックのうちの一つで福井県を含む構成になっており、大阪大学医学部附属病院が選ばれた。

### モデル事業とは

モデル事業とは一般に、ある地域またはある時期模範的に事業化して展開させその効用を確認し評価する公的事業のことを指し恒久的なものではない。事業の成果を社会に還元するのが目的で、本モデル事業の成果としては、生物心理社会モデルに基づいた慢性痛診療に関連した診療行為に対する保険収載や、痛みセンターなど慢性痛に対する医療の拠点作りなどが目標となる。

## 事業内容

近畿地区の事業は、生物心理社会モデルに基づいた慢性疼痛診療ネットワークの構築を目標に、

① 診療連携 ② セミナー開催 ③ 施設訪問研修の3つの事業を行っている。

## 診療連携

大阪大学医学部附属病院では、疼痛医療センターにおいて週1回、医師、臨床心理士、理学療法士の3職種による慢性痛初診患者の集学的な評価を行っている。そのうえで、患者個々の病態や社会的な状況などを考慮し、治療や対応の方法を決め提案する形をとっている。厚労省慢性対策研究班で開発した共通の多面的評価法を用いて経時的にフォローしデータを蓄積している。H30年度上半期には合計43名の初診患者の評価を行った。また、臨床心理士によるプログラム化された認知行動療法を2名に対して実施した。

滋賀医科大学医学部附属病院では、ペインクリニック外来にて理学療法士と臨床心理士とが連動して診療している。膳所診療所より、集学的診療が適すると思われる7症例について紹介を受け、うち5症例について理学療法士と臨床心理士による集学的な治療介入を行った。

関西医科大学附属病院では、心理的介入が必要な慢性痛患者について、月1回、約1時間のWEBミーティングを計5回（平成30年7月12日、8月9日、9月29日、10月11日、11月8日）実施し、相互紹介患者の情報共有、新規患者を他院心療内科へ紹介した経緯、心療内科と精神科の守備範囲などについて活発な議論を交わした。合計11症例について、診療連携をした。以下に詳細を報告する。

### ・篤友会千里山病院／リハビリテーションクリニック

当科から篤友会リハビリテーションクリニックへ、外来リハビリテーション目的で慢性疼痛、歩行障害の1症例を紹介した。→適応時期がなく、今後の入院リハビリを見越して紹介元で経過観察。

篤友会千里山病院へ入院および外来リハビリテーション目的で身体症状症、腰・左下肢痛の1症例を紹介した。→月1回程度継続通院中。

### ・大阪大学附属病院

大阪大学附属病院麻酔科から、病態評価、心身医学的治療目的で7症例の紹介を受けた。中枢介在性腹痛症候群が2例、筋骨格系慢性疼痛が5例である。

→5名は継続通院。中枢介在性腹痛症候群の1名は、症状はあまり変わらないがもともと通院希望は低く終診となった。筋骨格系慢性疼痛の1名は精神障害が主たる問題であり、患者自身も痛みの原因を精神的ストレスであると認識していたため、引き続きかかりつけの精神科クリニックへ通院継続の方針で当科は初診のみで終了となった。

### ・京都府立医大北部医療センター

京都府立医大北部医療センターペインクリニックから、病態評価、心身医学的治療目的で1症例の紹介を受けた。機能性胆嚢オッジ括約筋障害、大後頭神経痛として当科へ外来通院中である。→痛み症状は軽快し、残る不安障害の加療目的で京都府立医大北部医療センター精神科へ

紹介し当科は終診となった。

- ・滋賀医科大学附属病院

滋賀医科大学附属病院ペインクリニックから、交通事故後慢性疼痛の治療目的で1症例の紹介を受けた。継続診療の方針となった。

**篤友会千里山病院**では H29 年 10 月に本事業で集学的痛みセンター外来を開設し、本年度も継続運営している。大阪大学医学部附属病院と同様、医師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士による診療体制を整えている。集学的入院リハビリテーションでは、原則 3 週間のプログラムを行っている。4 月～8 月合計 18 症例紹介頂き、16 症例の診療連携をした。9 月～10 月 9 症例の紹介を頂き、全例診療連携した。以下に詳細を報告する。

9 月～10 月 9 症例の内訳

- ・阪大病院疼痛センター 4 名紹介

全身痛、後頭部痛、左上下肢痛、股関節痛が主訴の一次性慢性痛患者 4 名

後頭部痛、左上下肢痛の 2 名が入院集学的リハ施行し、全身痛、股関節痛の 2 名が外来にて運動療法と教育的サポート継続中である。

- ・のぞと診療所 2 名紹介

頸肩腕障害 2 名が紹介受診し、2 名とも外来にて運動療法と教育的サポート継続中である。

- ・さかいペインクリニック 1 名紹介

線維筋痛症の 1 名が受診した。外来にて運動療法と教育的サポート継続中である。

- ・関西医科大学付属病院 1 名紹介

慢性疼痛症候群（右第 1-3 指の痛み・しびれ）の患者が 1 名紹介受診した。外来にて運動療法と教育的サポート継続中である。

- ・市立芦屋病院 1 名紹介

外来にて運動療法と教育的サポート実施後、1 週間の入院運動療法を施行する予定である。

4 月～8 月 18 症例の内訳

- ・阪大病院疼痛センター 10 名紹介 8 名受診

集学的診療を目的として、ドケルバン病術後 1 名 変形性膝関節症 1 名 会陰部痛 2 名、脊柱管狭窄症術後 2 名 腰背部痛 1 名 頸腕症候群 1 名 線維筋痛症 1 名、緊張型頭痛 1 名 の紹介を受けた。線維筋痛症の 1 名、会陰部痛 1 名が初診をキャンセルし、緊張型頭痛 1 名が紹介元でのフォローとなった。ドケルバン病術後、会陰部痛、脊柱管狭窄症術後 各 1 名 腰背部痛の 1 名が入院集学的リハを施行し、頸腕症候群 1 名と脊柱管狭窄症術後 1 名が外来にて運動療法と教育的サポートを継続中である。変形性膝関節症 1 名については、紹介元 膳所診療所の治療継続の方針を提示した。

- ・兵庫医大ペインクリニック

集学的診療を目的として、CRPS 1 名の紹介を受けた。外来にて経過観察し、心療内科の紹介をする予定である。

- ・滋賀医大ペインクリニック

集学的診療を目的として、Chronic Widespread Pain 1 名の紹介を受けた。当面、外来にて生活指導、教育的アプローチを行う予定である。

- ・市立芦屋病院 麻酔科 1名

集学的診療を目的として線維筋痛症1名が紹介となった。外来にて運動療法と教育的サポートを継続中である。

- ・兵庫医大整形外科 1名

集学的診療を目的として、左膝痛 1名の紹介を受けた。外来にて運動療法と教育的サポートを継続中である。

- ・膳所診療所 2名

頸肩腕障害 2名が紹介となった。1名は紹介元の治療を継続していただくことになり、1名は運動療法を中心とした1週間の入院を施行した。

- ・京都府立医科大学ペインクリニック 1名

右足 Morton 病の1名が紹介となった。外来にて、運動療法と教育的サポートを継続中である。

- ・関西医科大学付属病院 心療内科 1名

両膝痛の1名が紹介となった。状況の変化が生じたら、再診していただくことになった。

**市立芦屋病院**では、いたみどめ調整入院を開始した。鎮痛薬などが過量となり日常生活に悪影響を及ぼしている患者の薬剤減量や、高齢者の侵害受容性疼痛に対して入院の安全な状況で強オピオイドを開始している。H30年度上半期は薬剤減量が1名、オピオイド開始が1名に対して実施した。

**神戸大学医学部附属病院**では、現在、本事業を目的とした具体的な診療連携は行っていないが、2017年度から行っている専門臨床心理士による認知行動療法を行っていることを地域にプロバガンダし診療連携を広げたいと考えている。

**国立病院機構大阪南医療センター**では、関節リウマチをはじめとするリウマチ関連疾患に対して、リウマチ内科医、整形外科を始め、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、看護師、臨床心理士など多数の医療関係者が、臨機応変に役割を分担して問題解決にあたる Transdisciplinary Team Model に基づいたチームを編成して治療にあたっており成果をあげてきた。事業開始後は、リウマチ患者を対象にアンケート調査を行い、痛みと活動、うつや不安、破局化などの心理的状态を調べるとともに、当院臨床心理士が他の医療機関に訪問し研鑽に努めた。画像や検査データと乖離した症状を訴える慢性疼痛患者1症例について、行岡病院へ紹介した。

**大阪大学歯学部附属病院**で行った診療連携を以下に示す。

- ・大阪大学医学部附属病院から、口腔顔面痛を呈する患者2症例について、口腔顔面痛の精査目的で紹介された。
- ・滋賀医科大学医学部附属病院から紹介された2症例について、口腔顔面痛に対する評価・診断・治療方針の提案を行った。
- ・関西医科大学医学部附属病院から紹介された2症例について、頭頸部慢性痛に対する評価・情報提供を行った。

- ・篤友会千里山病院に、短期集学的入院リハビリテーション適応である1症例を紹介した。

京都府立医科大学附属北部医療センターで行った診療連携を以下に示す。

関西医科大学心療内科

症例は30歳代の外国籍女性で主訴は右季肋部痛。外来加療を受けることになった。

千里山病院リハビリテーション科

右足の慢性痛を訴える女性で、リハビリを行って就労復帰したいとの希望があるために、千里山病院リハビリテーション科を紹介し、外来でのリハビリテーション治療を受けている。

大津赤十字志賀病院での診療連携を以下にまとめる。

- ・滋賀医科大学附属病院

今後の治療方針について腰部脊柱管狭窄症、多発性腰椎圧迫骨折について紹介した。

膳所診療所職業病外来では、手話通訳者、重度心身障がい者施設職員、保育士、介護士、看護師、特別支援学校教員、建築労働者などの頸肩腕障害や腰痛などの作業関連性運動器障害を診療しており、メンタル不全を併発するケースも少なくない。滋賀医科大学附属病院に7症例の慢性疼痛患者を紹介した。篤友会千里山病院に入院リハビリを目的に、2症例の慢性疼痛患者を紹介した。

奈良県立医科大学附属病院での診療連携を以下に示す。

大阪大学付属病院と1症例の診療連携を行った。

和歌山県立医科大学附属病院 福井大学医学部附属病院 市立西宮中央病院では本事業に沿って実施した今年度の診療連携はない。

兵庫医科大学病院より入院リハ、集学的治療、CBTを目的として、慢性痛患者1症例を大阪大学病院および千里山病院紹介した。

早石病院では、リハビリを中心とした入院リハを5名に対して実施した。

民医連 西淀病院・のぞと診療所の産業医学科では、頸腕症候群や腰痛などの慢性痛患者の診療を行ってきたが、篤友会千里山病院での施設見学を通して本モデル事業について理解を深め、集学的診療に適合する症例の紹介を始めた。H30年度上半期には3例を千里山病院に紹介している。

## セミナー開催

### 全体セミナー

- ① 平成30年9月2日開業医慢性痛連携セミナーを開催した。(参加者28名)リハビリ療法士を雇用している開業医の診療内容が紹介するとともに、NPO いたみ医学研究情報センターが行ってきた医療者研修会の紹介、開業医で勤務する理学療法士の診療内容の紹介と今後の課題について発表した。集学的アプローチを実施している医療機関との連携について情報共

有した。

- ② 平成 30 年 9 月 24 日千里ライフセンターにて市民公開講座を開いた。(参加者 40 名) 篤友会千里山病院での集学的診療、市立芦屋病院でのいたみどめ調整入院について紹介し、慢性痛の病態や対処法について解説した。参加した市民からのアンケートで非常に大きな反響があり ([http://painkinki.html.xdomain.jp/img/survey\\_citizens\\_20180924.pdf](http://painkinki.html.xdomain.jp/img/survey_citizens_20180924.pdf))、次年度以降さらに規模を広げて実施する予定である。
- ③ 平成 30 年 10 月 21 日リハビリ療法士慢性痛セミナーを開いた。(参加者 50 名) 主に慢性痛診療にかかわっているあるいは興味のある理学療法士・作業療法士を対象に、簡単に実施できる認知行動療法、恐怖条件受けの仕組みと克服するための治療。ペインクリニック診療における理学療法、外来リハビリ施設での治療成績などについて講演が行われた

年度内に、以下の 3 つの全体セミナーを計画している。

(<http://painkinki.html.xdomain.jp/seminar.html>)

H30 年 12 月 15 日 (土) 第 9 回関西痛みの診療研究会 (関西医科大学 枚方)

H31 年 1 月 14 日 (月・祝) 臨床心理士慢性痛セミナー (CIVI 研修センター 新大阪東)

H31 年 2 月 11 日 (月・祝) NPO 痛みラボ地域別医療者研修会 (ナレッジキャピタル C)

### 個別セミナー

- ① 平成 30 年 5 月 20 日に、大阪府歯科保険医協会主催の学術講演会「日常臨床で知っておくべき非歯原性歯痛の診断とその対応」において石垣尚一が講演を行った。対象は主に大阪府の開業歯科医師であり、約 100 名が参加した。
- ② 平成 30 年 5 月 12 日、京都タワーホテルにて開催の“京滋腎透析フォーラム 2018”で“透析患者と痛み”のタイトルで講演を行った。参加者は透析に関わる医師、看護師、臨床工学士など医療関係者 110 名であった。
- ③ 平成 30 年 9 月 20 日、大阪南医療センターにてリウマチ合同研修会が行われた。参加者は新潟県立リウマチセンター 13 名、兵庫県立加古川医療センター 19 名。日本生命病院 2 名、甲南加古川病院 4 名。その他、当院スタッフ 20 名程度。その演題の 1 テーマとしてリウマチ科と協働する各職種から活動内容の紹介 (10 分程度) があり、当院心理士は慢性疼痛にについて本モデル事業の活動を紹介した。

### 施設訪問研修

慢性痛の診療ネットワークの構築には、診療を担う人材の育成が重要である。図書やセミナー参加で学ぶ知識に加えて、慢性痛診療の実際を見て研修することが重要と考え、本モデル事業では施設相互訪問を活発に行っている。今年度 16 名の医療者が施設見学を行っており、その報告書

の一部を HP に掲載した。

平成 30 年 11 月 15 日  
大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座麻酔・集中治療医学教室  
(文責) 招へい教授 柴田政彦  
教授 藤野裕士